



## 保育科 教授

山内紀幸 (やまうち のりゆき)

Yamauchi Noriyuki

自己紹介 (プロフィール)	教育哲学や教育思想史を専門に研究してきました。現在は、教育実践に深く関わりながら、教育研究活動や教育者養成を行うという貴重な経験をさせてもらっています。
学生へのメッセージ	短期大学の2年間はあっという間に過ぎていきます。授業だけでなく、サークル活動やアルバイトなどで人間関係を広げ、様々な経験を積んでほしいです。本学は教員と学生の距離がとても近く、アットホームな雰囲気が自慢です。何か困ったことがあれば、気軽に相談にきてください。
保有学位	博士 (教育学) 広島大学 修士 (教育学) 広島大学
保有資格・免許	中学校教諭一種免許状 (社会) 高等学校教諭一種免許状 (地理歴史)
研究分野	教育哲学、教育思想史、教育課程論
現在の研究テーマ	小学校の教育課程に関する研究 (共同) 新教育における「教育概念」に関する思想史的研究 (単独)
主な担当科目	教育原理、教育哲学<専>、教育課程特論<専>
学内での活動	教務部長 カリキュラム委員会委員長 自己点検評価委員会副委員長
学外での活動	山梨学院高等学校校長 (H27~) 山梨学院中学校校長 (H26~) 山梨学院小学校校長 (H22~) 公益社団法人山梨県私学振興会理事 (H24~) 山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター常任研究員 (H16~)
所属学会	教育哲学会、教育思想史学会、日本保育学会、日本教育学会 教育思想史学会編集委員 (H21~) 教育思想史学会理事 (H24~)

主な職務実績（抜粋）

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(社会教育講座) 子育て応援フォーラム「いま子育てに必要なこと：家庭・地域・世代をつなぐ」(共同)	H20.11	子育て中の母親がどのような悩みをもつか、母親が望む子育ては何か、について、市民のインタビューを含めてパネリストとともに議論を深めていった。コーディネーター、当日の司会者として、人選やシンポジウムの進行を行った。(子育て応援フォーラム実行委員会主催、こども未来財団共催、於：山梨県立文学館)
(社会教育講座) 子どもを伸ばす接し方：家庭教育のツボ(単独)	H23.12	家庭教育での子育てについて、10のツボを紹介。家庭学習での注意点や、家庭での社会教育施設への旅行の大切さ、学習習慣をつけるための工夫などについて講演を行った。(山梨学院大学附属小学校けやきの会主催、於：山梨学院メモリアルホール)
(公開講座) ディスカッション「科学する心を育てる」(共同)	H25.8	「科学する心」をいかに育てて、露木和男氏の講演会を受けて、パネラーとディスカッションを行った。露木氏からは、不思議さと問いの大切さについて、大久保氏からは植物がもつ規則性の発見について、田中氏からはクロノス時間とカイロス時間という時間論について、興味深い言及をいただいた。(山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター主催、於：山梨学院大学附属小学校)
(社会教育講座) 子どもの知的好奇心を育てる：家庭での子育てのヒント(単独)	H26.2	好奇心を伸ばすための、幼児期から家庭でできる工夫について講演を行った。好奇心の伸長に加えて、情緒の安定、集中力、生活習慣の重要性にも触れた。また、小学校入学後の学習指導において、ヒントとなる事柄についても解説した。(山梨県教育委員会主催、平成25年度父親の子育て参加支援事業、峡東地区保育所(園)保護者連合会研修会、於：甲州市塩山ふれあい館)

主な教育研究業績（抜粋）

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
教育学における優生思想の展開：歴史と展望(共著)	H20.2	勉誠出版	イタリアの教育家であるマリア・モンテッソーリの教育と優生学との関係について論述した。社会改革実践として「子どもの家」を捉え、野心、実践、帰結の3層構造の中で、それらが上手くかみ合っていない点を指摘した。またアメリカの1990年代に沸き起こった「ベル・カーブ論争」について、その教育思想上の構図と問題点について明らかにした。(第2部第1章、第3部第2章担当)
グローバルな学びへ：協同と刷新の教育(共著)	H20.6	東信堂	グローバル社会における学力について論考した。日本における学力問題をPISA調査から検証し、その課題を明らかにするとともに、DeSeCoプロジェクトについて概観しその学力観の国際的な変化に伴ってその評価方法が大きく変わってきたことを指摘した。(第6章担当)
学びを支える活動へ：存在論の深みから(共著)	H22.4	東信堂	理想的な学びの状態の状態は、授業における「学びの楽しさ」を舞台化することによって可能となる。ここでは、「学びの楽しさ」として、「出会いの楽しさ」「当事の楽しさ」「対話の楽しさ」「思考の楽しさ」「達成の楽しさ」の5つを挙げ、それらに対応する授業原理の5つを挙げている。(終章担当)
教育課程論(共著)	H23.4	一藝社	教育課程とは何かという根本的な問題を「制度化されたカリキュラム」「計画されたカリキュラム」「実践されたカリキュラム」「経験されたカリキュラム」を区分として概念整理を行った。また、教育課程をめぐる論争として、学力低下論争を取り上げ、また、国際的な学力観が大きく変化してきていることを取り上げ。(編者、序章、終章担当)